

科目名	保育内容 B				担当者	佐々木 貴弘 ・ 佐藤 万利子 ・ 君島 智子						
区 分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。 e-mail:sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp, sato.mariko@seiwa.ac.jp, kimijima.tomoko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	自らが遊びこむことを通して、「遊び」の意味を理解し、説明できる。										
	②	「遊び」こむ実体験の中から、保育内容の5領域の意義を理解し、説明できる。										
	③	「遊び」における表現と伝えあいを、保育5領域の総合化を通して理解し、実践できる。										
	④	幼児の発達・成長を考えながら「遊び」を発展させていく力を獲得できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる保育内容の5領域を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身につけ、活用することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長を促す造形表現力、音楽表現力、身体表現力を習得し、実践できる。(専門的学習効果③④に関連)										
	(3)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、子どもの意欲的な活動を支援することができる。(専門的学習効果④に関連)										
授業概要	津守真は、幼児の遊びの世界の、人間の精神の発達における意味を認識することの大切さを述べている。この授業では、表現し、伝え合い、展開していく「遊び」を自らが遊びこむ体験を通して、その意味を理解する。「遊び」が保育内容の5領域によって形作られていることを体験的に理解し、特に表現の多様性、様々な要素によって伝えあい、発展していくことを学ぶ。言葉遊び、素話、劇遊び、音楽劇等、表現と伝えあいによる広がりを通して「あそび」を発展させていく力を獲得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	各表現活動を振り返り、保育の全領域にまたがる総合的な活動の理解を観点に評価を行う。各10%を3回実施する。								
		発表	50	劇遊び上演に向けての練習、話し合い、発表までの過程の取り組み方と発表の内容により評価を行う。各25%を2回実施する。								
	平常点	20	表現活動や発表への取り組み、意欲、態度を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習効果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくる。(予習：週2時間程度) 事後学習としては、レポートを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②練習過程と発表に対するフィードバックは実施後に、映像機器を活用して振り返り、講評を行う。											

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	保育内容Bの授業内容、目的と計画		○レポート 素話と5領域の関わりを認識し理解を深める。	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。			
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの内容を踏まえて学習計画を立てる。			
	授業内容	言葉による表現①素話を学ぶ			
3回	学習成果	素話の概要を知り、講演を聞く。素話の実践活動は、子どもの聴く力、想像力、考える力、集中力が育つことを理解する。			
	予習復習の内容	素話の題材を選び、原稿を声を出して読みながら内容をイメージする。			
4回	授業内容	言葉による表現②素話を語る			
	学習成果	素話に表情を付け声の抑揚を変えながら語り、聞き手に物語のイメージを伝えることができる。			
5回	予習復習の内容	幼児のための素話(昔話)8話の内容を楽しみながら理解を深める。			
	授業内容	音楽劇(子供と一緒に音・音楽・物語りで楽しむ)について①題材の選択			
6回	学習成果	複数の音楽劇上演映像、テープを脚本を見ながら視聴することで理解し、演目の選択ができる。			
	予習復習の内容	保育者が子どもと共に楽しみながら5領域を育むために音楽劇のねらいを考える。			
7回	授業内容	音楽劇について②配役・担当の配置			
	学習成果	上演する音楽劇の配役(登場人物・ナレーター・司会)音楽、担当(音楽・衣装・大道具)を決定できる。			
8回	予習復習の内容	決定した上演演目の脚本を読み込み、物語のイメージを広げる。			
	授業内容	幼稚園劇遊びに向けて(1)			
9回	学習成果	3グループ(3歳児・4歳児・5歳児)の発達に合わせた脚本の劇遊びを選択することができる。			
	予習復習の内容	発達段階に合わせて劇遊び脚本の「ねらいと内容」を考え、育みたい資質・能力を「幼稚園教育要領」の領域で確認する。			
10回	授業内容	幼稚園劇遊びに向けて(2)			
	学習成果	劇遊びの構成・演出・振付を、子どもが表現を楽しめるよう「ねらい」に照らし合わせて考え組み立てることができる。			
11回	予習復習の内容	決定した3グループ(3・4・5歳児)向けの上演演目の脚本を読み込み、物語のイメージを広げる。			
	授業内容	幼稚園での劇遊びによる表現(3)			
12回	学習成果	劇遊びの中で、子ども自身も登場人物になって楽しめる活動を考え計画できる。			
	予習復習の内容	劇遊びから劇ごっこ(子ども参加型の劇遊び)への保育の展開を考える。			
13回	授業内容	幼稚園での劇遊びの実践(4)【3クラス(3・4・5歳児)に分かれて演じる】		○発表 習得した知識や技能を活かして、聖和幼稚園で劇遊びを実践する。	
	学習成果	学習した造形表現力、音楽表現力、身体表現力を発揮して劇遊びを実践できる。			
14回	予習復習の内容	脚本・演出を確認して衣装、小道具の準備等、グループで仲間との協働作業をする。			
	授業内容	音楽劇③劇の演出を考える			
15回	学習成果	劇遊びの経験から得た課題を基に、音楽劇の表現力を高めるための工夫を考え計画できる。		○レポート 劇遊びの実践から遊びと5領域の関りの理解を深める。	
	予習復習の内容	幼稚園で実践した劇遊びを振り返り、課題を抽出する。			
16回	授業内容	音楽劇④歌と表現での劇世界を考える			
	学習成果	各担当(登場人物、音楽、ナレーター)で演出や表現方法を話し合い独自の音楽劇を創作することができる。			
17回	予習復習の内容	脚本・演出を確認、考察して、グループで仲間との協働作業をする。			
	授業内容	音楽劇⑤演じることを楽しむ			
18回	学習成果	子どもと共に、歌って踊って役になりきって楽しめるように演じることができる。			
	予習復習の内容	衣装、小道具の製作準備等を仲間と協働作業をする。			
19回	授業内容	音楽劇の上演に向けて			
	学習成果	練習をビデオで撮影して客観的に見ることで、演技や表現を振り返り、修正できる。			
20回	予習復習の内容	音楽劇を通して、子どもが音楽や表現することの楽しさを味わえるよう考える。			
	授業内容	まとめ			
21回	学習成果	「遊び」は保育の全領域にまたがる総合的な活動で、子どもの発達や成長を育むことを理解し、実践できる。			○レポート 素話、劇遊び、音楽劇が全領域に関わり、子どもの成長を育むことの理解を深める。
	予習復習の内容	素話、劇遊び、音楽劇の5領域との関係をまとめる。			
22回	授業内容	音楽劇上演			○発表 習得した知識や技能を活かして、イズミティ「母と子のロビーコンサート」で音楽劇を実践する。
	学習成果	学習した造形表現力、音楽表現力、身体表現力を発揮して音楽劇を実践できる。			
予習復習の内容	心身ともにコンディションを整えて、音楽劇の発表に臨む。				